

平成 26 年度
公益財団法人つくば科学万博記念財団
事業報告書

自 平成 26 年 4 月 1 日
至 平成 27 年 3 月 31 日



公益財団法人つくば科学万博記念財団（以下「財団」という。）は、国際科学技術博覧会の意義と成果を継承し、我が国の科学技術の振興に寄与するため国際科学技術博覧会記念基金を活用し各種事業を行っている。

平成 26 年度は、年度事業計画に基づきつくばエキスポセンター（以下「センター」という。）の運営をはじめ、科学技術の普及啓発、人材育成、国際交流並びに産学官の研究機関の連携促進に関する事業等を実施した。

事業活動収支においては、為替の円安傾向が継続している環境のなか予算を上回る基金運用収入を得たこと及び経費の節約等により約 2,200 万円のプラスとなったことで、特定資産の積み増しを行うことができた。また、公益法人移行後初めての内閣府による立ち入り検査を受検し、大きな指摘もなく終了したことなど財団の運営を滞りなく進めることができた。

なお、平成 26 年 4 月から適用が開始された消費税率の 8%への引き上げには、センターの入館料等を改定して対応した。

平成 27 年は、国際科学技術博覧会の開催から 30 周年を迎える節目の年であり、3 月に 30 周年記念事業の始まりとなるテープカットをはじめ、ニュートンのリンゴ記念植樹を実施したほか、平成 27 年度に実施する記念事業の企画・準備を開始した。

平成 26 年度に実施した事業は以下のとおりである。

I. 事業の実施状況

1. つくばエキスポセンターの運営【公益 1・収益 1】

学校、科学館、地域の自治体、研究機関、大学等との連携強化に努めながら展示、催事、プラネタリウム等各事業を実施し、青少年を中心に科学技術の普及啓発に資する多面的な運営を行った。

平成 26 年度末から平成 27 年度にかけて行う国際科学技術博覧会 30 周年記念事業に際し、関連資料の収集、バックヤードの整備を進めたほか、30 周年を機に自治体、民間企業、国際科学技術博覧会 OB 会及び報道機関等が計画する事業の実施等に協力した。

1-1. 展示【公益 1】

(1) 1 階展示場・エントランスホール

「おもしろサイエンスゾーン」「エネルギーゾーン」を中心に科学の原理やテクノロジーに関する体験型展示物等を引き続き展示した。

- ① 「おもしろサイエンスゾーン」に「振り子で砂のもよう」（リサーチュ）を設置した。
- ② 「サイエンスワークス」につくば賞、江崎玲於奈賞等の関連展示を設置し

た。

- ③ 「サイエンスシティつくば再発見」では、筑波研究学園都市の5機関等(気象庁・地磁気観測所、アステラス製薬株式会社、独立行政法人農業環境技術研究所、つくば国際戦略総合特区、独立行政法人産業技術総合研究所・地質調査総合センター)の研究活動を紹介する展示を行った。
- ④ その他
 - a. 平成23年度から引き続き、センター敷地内の放射線量を測定し結果を掲示した。
 - b. 「はやぶさ2」実物大模型展示を行った。
 - c. 日本人ノーベル物理学賞受賞(赤崎氏、天野氏、中村氏)に関連してLED関連の展示を行った。

(2) 2階展示場

「夢への挑戦 - のぞいてみよう科学がひらく未来 -」「サイエンスギャラリー」等において日本国内を中心に行われている研究開発や先端科学技術などを紹介する展示を行った。

- ① 「日本の宇宙飛行士」コーナーに「油井亀美也宇宙飛行士」のパネルを追加した。
- ② 宇宙開発コーナーの「国際宇宙ステーション船内ラック」一時貸出(平成27年3月8日～5月28日)に伴い、同期間中に油井宇宙飛行士の映像と宇宙食の実物展示をはじめ、スペースシャトルラック、H-2B ロケット、M5 ロケット等の1/25サイズ模型展示や日本の衛星探査機の模型展示を行った。
- ③ 「南極展示」では、昭和基地からのリアルタイム映像に加え、隊員が撮影した南極の星空とオーロラの映像を上映した。また、「南極隊員が撮影したフォトレポート」パネルの更新を行った。
- ④ イベントスペース「創造の森“ワンダーラボ”」では、サイエンスショーやミーツ・ザ・サイエンス、エキスポ探検隊、H-2A ロケット打ち上げ中継(2回)等のイベント実施に加え、国際宇宙ステーションからの地球のリアルタイム映像を受信して「ISS アースビュー」の上映を行った。
- ⑤ サイエンスギャラリーでは、「切手で見ると世界の科学技術の発展」「科学技術の『美』パネル展」を展示した。
- ⑥ 3Dシアターのプロジェクターをはじめとする主要機器を更新した。

(3) 屋外展示場

- ① 「H-2 ロケット実物大模型」「ゆるぎ石」「巨大音叉」「はやぶさ方探アン

テナ」等を引き続き展示した。また、「H-2 ロケット実物大模型」「H-2A ロケットフェアリング（実物）」に関しては再塗装工事を実施した。

- ② 平成 24 年度から継続して、南極 OB 会茨城支部と連携し「南極専用小型雪上車」の修復作業を行った。
- ③ 屋外ひろばを利用してサイエンスショー「シャボン玉」などのイベントを実施した。
- ④ 繁忙期における屋外展示場への誘導や入館者滞在箇所の分散を目的に児童が空気の力を実感しながら楽しめる「ふわふわ遊具」を設置した。

1-2. プラネタリウム【公益1】

プラネタリウム、全天周デジタル投影システムを活用し、センター独自の「オリジナル番組」および「星空生解説」を四半期ごとに企画・制作し上映した。「こども番組」を半期毎に入れ替え上映したほか、「特別番組」を1年間上映した。

特に、ゴールデンウィークの4日間およびお盆期間を含む5日間は、1日の上映回数を増やして（7回）上映した。

また、より快適に、より多くの入館者にプラネタリウムを観覧してもらう取り組みとして、字幕、副音声（日本語、英語）、補聴援助機器（タイループ）を導入し（平成 26 年 11 月より）機器貸出サービスを開始した。貸出状況は、字幕上映 44 回、イヤホン 67 件（うち日本語 13 件、英語 54 件）、タイループ 5 件（うち日本語 4 件、英語 1 件）であった。

加えて、過去に上映したオリジナル番組を平成 26 年 4 月に 4 番組および平成 27 年 3 月に 4 番組を再上映した。

オリジナル番組のうち「超新星爆発」など 4 作品が他の博物館・科学館 6 館で上映されるなど、配給を通して他館での星空・天文の普及活動に貢献した。

このほか、オリジナル番組の監修者、協力者を講師とする関連講演会を 2 回、特別番組の番組制作者を講師とする講演会を 1 回開催した。

1-3. 催事【公益1】

（1）定例催事

- ① 土・日・祝日に毎月テーマを変えて「サイエンスショー」および「科学教室」を開催した。
- ② 「天体観望会」および展示解説ツアー「エキスポ探険隊」を定期的で開催した。

（2）特別催事

- ① 春休みや夏休みなど入館者の多い時期に合わせて特別展「文具展～身近

な道具にかくれた技術～」 「かたちの科学」 「数のひみつ～くらしの中の数学～」 を開催した。

- ② 研究者と入館者の交流を目的に講演会やワークショップを行う「ミーツ・ザ・サイエンス」を3回開催した。
- ③ 財団が主催する「第16回全国ジュニア発明展」の入選作品展示会を行った。
- ④ 『宇宙の日記念』全国小・中学生作文絵画コンテスト」の開催に茨城県の科学館として協力し、優秀な作品の児童・生徒に対し館長賞等を授与し表彰した。また、優秀作品の展示会を開催した。
- ⑤ 茨城県県南教育事務所などが主催する第58回「茨城県児童生徒科学研究作品展・発明工夫展県南地区展」の展示会開催に協力したほか、優秀な作品の児童・生徒に対し館長賞を授与した。
- ⑥ 科学技術週間中に「第55回科学技術映像祭」入選作品の上映、「一日館長」及び「一家に1枚」科学のポスター展を行った。また、春休み期間に「第12回全国こども科学映像祭」「第13回全国こども科学映像祭」の入選作品を上映した。

1-4. 国際科学技術博覧会 30周年記念事業【公益1】

国際科学技術博覧会が開催されてから30周年を迎えたことを記念する事業を実施した。

(1) テープカット

科学万博が開幕した3月17日に合わせて、入館者、保育園児、科学万博当時の関係者等による記念テープカットを行った。

(2) ニュートンのリンゴの木 植樹式

入館者、つくば市長、科学万博当時の関係者らと共に、屋外展示場にニュートンのリンゴの木を記念植樹した。

(3) 「再来！科学万博コンパニオン～つくば'85を思い出してみよう～」

科学万博の華と注目された各パビリオンのコンパニオンにスポットをあて、コンパニオンユニフォームの紹介展示を展開し、3月中に5日間、コミュニケーターが当時のコンパニオンユニフォームを着用して案内業務を行った。

(4) 展示、バックヤードの整備

催事等での一般公開も念頭にハイビジョン調整室を中心としたバックヤードの整備を行ったほか、博覧会で活躍した「コスモ星丸ロボット」のメンテナンスを行い当時の状態で展示運用した。

1-5. ボランティアインストラクター【公益1】

研究機関及び教育機関等での高い専門性等を有する有志の人材からなるボランティアインストラクター制度を運用し、展示解説、なんでも科学相談コーナー、科学教室、アウトリーチ活動等センターの事業に参画・協力を得た。

1-6. 入館者【公益1】

(1) 入館者数、年間パスポート会員数

平成26年度の入館者数は、昨年度比1,060人増の175,772人であった。この内プラネタリウムを目的とする入館者は、昨年度比3,388人減の111,122人（総入館者数に占める割合は約63%）であった。

平成27年3月末時点の年間パスポート会員数は、昨年度比4人減の2,907人であった。

(2) 入館者誘致

センターのホームページの活用をはじめ、茨城県県南地域を中心に隣接する県および東京都の自治体、教育機関、観光関係事業者等239機関にセンターの情報を発信した。このほか、各種媒体に広告掲載を行った。

つくばサイエンスツアーや「つくばちびっこ博士」など自治体等の活動と連携・協力しセンターの利用促進を図ったほか、観光キャンペーン等でセンターの活動紹介を行った。

また、年間パスポート会員のうち、情報配信を希望した会員（平成27年3月末時点635人）に対し、センターのイベント情報を毎月電子メールで配信した。

1-7. 協議会等活動への参加・協力【公益1】

「全国科学館連携協議会」「全国科学博物館協議会」「日本ミュージアム・マネージメント学会」「日本プラネタリウム協議会」「茨城県次世代エネルギーパーク推進協議会」「つくばサイエンスツアー実行委員会」「日本展示学会」の活動に参加・協力した。

1-8. ミュージアムショップ、駐車場の運営並びに施設の利用促進【収益1】

(1) ミュージアムショップ、駐車場の運営

国際科学技術博覧会 30 周年にあたり、科学万博当時のデザインを復刻した品の販売を開始したほか、入館者の科学技術に対する理解の促進に資するため、科学館に相応しい品の充実に努めながらミュージアムショップの運営を行った。

また、入館者の利用に供するため駐車場を平日は無料で、土・日・祝日及び春・夏休み等の繁忙期は有料で運営した。

(2) 施設の利用促進

センターの利用促進及びサービスの充実を目的に引き続き外部事業者レストランの運営、SL 等イベントの実施を委託した。

また、センターの運営に支障のない範囲で休憩室等を有料で貸与した。

1-9. 施設・設備の修繕【公益1】

空調装置の一部機器の更新、センター施設周りの外灯(LED)の追加整備を行ったほか、設備の定期点検において経年劣化が認められた機器等の改修を行った。

2. 国際科学技術博覧会記念基金事業（科学技術の普及啓発、人材育成、国際交流および科学技術に関する産業界、大学、公的研究機関の連携促進に関する事業）【公益2・収益2】

2-1. 国際交流推進事業【公益2】

青少年を対象とする国際交流推進活動に対する支援を予定していたが、申請がなかったため実施しなかった。

筑波研究学園都市で開催される国際シンポジウムに対する支援として、「11th IMEKO Symposium LMPMI2014」等4件に対し助成を行った。

2-2. 産・学・官研究者等交流推進事業【公益2】

筑波研究学園都市交流協議会が実施する「筑協 FM ラジオ番組放送事業」に対し助成を行った。

一般財団法人茨城県科学技術振興財団 つくばサイエンス・アカデミーが主催する「第9回 SAT つくばスタイル交流会」「SAT テクノロジー・ショーケース in つくば 2015」を共催し、「SAT フォーラム 2014」に対する後援を行った。

2-3. 普及啓発・人材育成事業【公益2】

(1) 科学技術映像

公益財団法人日本科学技術振興財団等2団体との共催で「第56回科学技術映像祭」を、一般財団法人日本視聴覚教育協会等3団体との共催で「第13回全国こども科学映像祭」を実施した。

(2) 科学館連携事業

- ① 全国科学館連携協議会が実施する「平成26年度海外科学館視察研修」に対し助成を行った。
- ② ぐんまこどもの国児童会館等6館でエネルギー展示物、公益社団法人日本アイソトープ協会武見記念館等6館で「科学技術の『美』パネル展」CD、八ヶ岳自然文化園等3館で「切手で見える世界の科学技術の発展」CDの巡回展を実施した。

(3) 青少年科学啓発

- ① 全国の小中学生を対象に「第16回全国ジュニア発明展」を実施し、優秀な作品の児童・生徒、団体に対し財団理事長賞等を授与し表彰した。また、平成27年度実施予定の「第17回全国ジュニア発明展」の文部科学省後援及び文部科学大臣賞授与の申請を行い、3月に認可された。平成26年7月には、全国ジュニア発明展の15周年を記念し、青少年の発明に対する意欲喚起につなげることを目的にこれまでのあゆみや成果、発明に役立つ知識等をまとめた書籍「発明入門 子供も大人も夢中になる（全国ジュニア発明展実行委員会編集/公益財団法人つくば科学万博記念財団監修）」を制作・発行した（発売部数：1,613部）
- ② 科学技術週間における研究施設一般公開に対する支援を行った。
- ③ 日本生物学オリンピック2014本選（つくば大会）を共催し、優秀な参加者に対し財団理事長賞を授与した。
- ④ 第7回日本地学オリンピック、同「ぐらんぷり地球にわくわく」を共催し、優秀な参加者に対し財団理事長賞を授与した。
- ⑤ 「第15回全国中学生創造ものづくり教育フェア」を共催し、優秀な参加者に対し財団理事長賞を授与し、受賞作品をセンターで展示した。
- ⑥ 「第14回高校生ものづくりコンテスト全国大会」（東北）を共催した。
- ⑦ 「第4回科学の甲子園茨城県大会」を共催し、最優秀チームに対し財団理事長杯を授与し、当該チームの生徒および成績上位校に対し記念品を贈呈した。
- ⑧ 「マイクロマウス2014（第35回全日本マイクロマウス大会）」を共催し、

優秀な参加者に対し財団理事長賞を授与した。

- ⑨ 「つくばチャレンジ 2014」(センサーやカメラ、GPS などから得られる画像や位置情報を基に、障害物を避けながら実際の遊歩道を決められた経路に沿って自律走行するロボットの公開走行実験)を共催した。

(4) 参加体験型科学教育活動

幼稚園、学校、公民館等に対して実験機器貸出、科学出前教室、サイエンスショー等のアウトリーチ活動を実施した。実施件数は 110 件、受講者数は 11,935 人(昨年度は 106 件、12,518 人)であった。

(5) その他

つくば市教育研究会理科教育研究部・理科主任研修会の開催に協力した。

小・中学校(4校 12名)の職場体験の実施に協力した。

つくばエキスポセンター博物館実習受入要領を定め、学芸員養成の博物館実習(3大学、3名)を受け入れた。

2-4. つくばサイエンスニュース【公益2】

筑波研究学園都市にある研究機関や大学等がプレス発表したすべての科学技術研究活動の成果をウェブサイト上で分かり易く伝える「つくばサイエンスニュース」(週刊)の編集・発行を行った。

発行回数は 51 回、ページビュー数は昨年度比 19,655PV 増の 114,982PV、1 回当たりの平均ページビュー数は同 387PV 増の 2,255PV であった。

なお、平成 26 年 11 月からつくばサイエンスニュースの記事が常陽新聞サイエンス面において掲載されることとなった。

2-5. 語学研修事業【収益2】

筑波研究学園都市の研究機関や大学等の研究者等を対象に文部科学省研究交流センターと共催で英語研修を実施した。参加者数は昨年度比 19 名増の 306 名であった。

3. その他【他1】

東京分室において、「科学技術団体連合」および「牧友会」の事務局業務を行った。

Ⅱ. 公益財団法人の運営等に関する事項

1. 評議員会・理事会の開催

(1) 評議員会

(開催日)		議題
平成 26 年 6 月 26 日 (木)	第 7 回評議員会 (定時)	<p>決議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度決算報告書 (案) について ・理事及び監事の選任 (案) について ・名誉会長の選任 (案) について ・評議員、理事及び監事報酬等規程の改正 (案) について <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度事業報告書について ・基金運用状況と見通しについて ・第 9 回通常理事会決議事項について
平成 27 年 3 月 16 日 (月)	第 8 回評議員会 (臨時)	<p>決議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事の選任 (方法) について (案) <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度事業計画書について ・平成 27 年度収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みについて ・基金運用状況と見通しについて ・第 12 回通常理事会決議事項について ・財団事業 5 カ年計画にかかる 10 年後の総合評価について

(2) 理事会

(開催日)		議題
平成 26 年 6 月 5 日 (木)	第 9 回理事会 (通常)	<p>決議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度事業報告書 (案) について ・平成 25 年度決算報告書 (案) について ・評議員、理事及び監事報酬等規程の改正 (案) について ・名誉会長の選任 (案) について ・第 7 回定時評議員会の招集について (案) <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常勤理事の選任にかかる公募結果について

		<ul style="list-style-type: none"> ・基金運用状況と見通しについて ・職務執行状況報告
平成 26 年 6 月 26 日 (木)	第 10 回理事会 (臨時)	報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・第 7 回定時評議員会における役員選任結果について 決議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・代表理事・理事長の選定(案)について ・業務執行理事・専務理事の選定(案)について
平成 26 年 12 月 12 日 (金)	第 11 回理事会 (臨時)	報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・職務執行状況報告 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・基金運用状況と見通しについて ・財団事業 5 カ年計画にかかる 10 年後の総合評価について
平成 27 年 3 月 5 日 (木)	第 12 回理事会 (通常)	決議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度事業計画書 (案) について ・平成 27 年度収支予算書 (案)、資金調達及び設備投資の見込み (案) について ・第 8 回臨時評議員会の招集について (案) 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・職務執行状況報告 ・基金運用状況と見通しについて ・財団事業 5 カ年計画にかかる 10 年後の総合評価について

(3) 監査

平成 26 年 5 月 16 日 (金) ~18 日 (日) 公認会計士による監査

平成 26 年 5 月 30 日 (金)、6 月 3 日 (火) 監事監査

(4) 内閣府による立ち入り検査

平成 27 年 1 月 28 日 (水) に公益法人移行 (平成 24 年 4 月 1 日 (日)) 後初めての内閣府による立ち入り検査を受検した。現状の公益法人の運営について問題となる大きな指摘もなく終了した。

2. 資産運用

(1) 運用

財団事業の安定的かつ継続的な進展に資することを目的に資産の運用を行った。

為替レートの円安傾向が継続したことおよび債券の売却収入を得たことにより予算を上回る運用収入を得た。

(2) 基金運用委員会の開催

(開催日)		議題
平成 26 年 6 月 26 日 (木)	第 5 回基金運用委員会	<ul style="list-style-type: none">・基金運用状況と見通しについて・仕組外債購入の報告・債券運用の基準についての検討状況について・償還した債券の再投資について
平成 26 年 12 月 12 日 (金)	第 6 回基金運用委員会	<ul style="list-style-type: none">・基金運用状況と見通しについて・期限前償還となる債券の再投資について

3. 情報公開・広報

(1) 情報公開

「平成 25 年度事業報告書及び計算書類等」および「平成 26 年度事業計画書及び収支予算書等」を財団ウェブサイトで公開した。

(2) 広報

ウェブサイトを活用して各種事業およびセンターの活動に関する情報の発信を行った。財団ホームページのページビュー数は、昨年度比 3,072PV 増の 38,517PV、センターホームページのページビュー数は、同比 156,395PV 増の 1,577,925PV であった。

財団の事業活動について筑波研究学園都市記者会をはじめ報道関係機関等に資料配布を行った。センターのプラネタリウムや特別展等の活動については試写会・内覧会を開催して情報発信の強化を図った。取材等の対応件数は 251 件であった。

(3) 情報セキュリティの強化

サイバー攻撃に対する財団及びセンターのウェブサーバー、メールサーバーのセキュリティを強化するため、IPS（侵入防止システム）及び WAF（ウェ

ブアプリケーションファイアウォール) からのセキュリティサービスを導入した。

4. 業務執行体制

公益財団法人の代表理事として理事長、業務執行理事として専務理事を置き、事務局に企画調整室、総務部（資産運用室含む）、運營業務部および普及事業部を置き業務を行った。

5. 職員の資質向上

「全国科学館連携協議会海外科学館視察研修（アメリカ合衆国テキサス州）」
「全国プラネタリウム大会・姫路 2014」「全国プラネタリウム研修会・日立 2014」
「ユニバーサルデザイン天文研究会分化会イン山梨」「スカイマックス DS シリーズ合同研修会」「日本展示学会展示論講座」に職員を参加させて知識・技能の習得等職員の資質向上を図った。

6. その他

館内照明の LED 化を進めたほか、センターの入館者および業務に支障のない範囲で節電を実行し、昨年度比約 7%の電気使用量を削減した。

法令で実施が義務付けられている消防訓練を消防計画に基づき 7 月および 3 月に行った。

事業報告書の附属明細書について

平成 26 年度事業報告については事業報告書に記載のとおりであり、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので作成しない。